



ふくしまからはじめよう。



申込不要
・
入場無料

市民公開 第2回 ロハスの工学シンポジウム

～ふくしまの子どもたちの未来のために～

開催日時

平成25年 **3月2日(土)**
13:00~17:15

会場

日本大学工学部70号館



小児科医
NPO法人郡山ベップ子育てネットワーク理事長
菊池 信太郎氏



日本大学工学部
機械工学科 教授
加藤 康司

LOHAS

ロハスとは“Lifestyles Of Health And Sustainability”の頭文字LOHASのことで「健康で持続可能な生活スタイル」の意味です。

東日本大震災における原発事故以来、郡山では低レベル放射線下にある子どもたちの心と体の健康増進と、その向上策の一つとして屋内運動施設が期待されています。これらの課題に対し、日本大学工学部の掲げる「ロハスの工学」が子どもたちの未来のために何を成すべきか?市民の皆様と共に考えてみたいと思います。



司会: 日本大学工学部 機械工学科
准教授 伊藤 耕祐

開会挨拶

13:00-13:10 日本大学工学部長 出村 克宣

来賓挨拶

13:10-13:15 郡山市長 原 正夫氏

基調講演

13:15-14:00 「元気な子ども、明るい未来。郡山の元気、明日の福島。～震災後の子どもたちの現状と、子どもたちを育む取り組み～」
小児科医 菊池 信太郎氏(NPO法人郡山ベップ子育てネットワーク理事長)

14:00-14:45 「ロハスの産業と文化～脱原発県の進む道～」
日本大学工学部 機械工学科 教授 加藤 康司

14:45-15:00 休憩

パネルディスカッション コーディネーター: 日本大学工学部 土木工学科 教授 岩城 一郎

趣旨説明(ロハスの工学のロードマップ)

15:00-15:10

話題提供

15:10-15:30 「ロハスの工学によるエネルギー問題の解決に向けて」
日本大学工学部 生命応用化学科 准教授 児玉 大輔

15:30-15:50 「未来を担う子どもたちの学びについて考える」
日本大学工学部 電気電子工学科 准教授 村山 嘉延

15:50-16:10 「ロハスの地域・まちづくりの契機づくり」
日本大学工学部 建築学科 准教授 浦部 智義

ディスカッション

16:10-17:10 パネリスト: 菊池 信太郎氏, 箭内 研一氏(郡山市),
遠藤 佐起子氏(郡山市スクールカウンセラー),
児玉 大輔, 村山 嘉延, 浦部 智義

閉会挨拶

17:10-17:15 日本大学工学部 工学研究所長 竹中 豊文

申込不要
入場無料

ロハスの工学シンポジウム

～ふくしまの子どもたちの未来のために～

開催日時

平成25年**3月2日(土)**
13:00～17:15

会場

日本大学工学部70号館

「元気な子ども、明るい未来。郡山の元気、明日の福島。」 ～震災後の子どもたちの現状と、子どもたちを育む取り組み～

小児科医 NPO法人郡山ベップ子育てネットワーク理事長 菊池 信太郎氏



東日本大震災から早2年が経過しようとしている。多様かつ多大なる影響を受けた郡山の子どもたちの現状は、一体どのようなものであろうか。郡山市では震災直後に、行政、教育委員会、医師会で『郡山市震災後子どもの心のケアプロジェクト』を立ち上げた。その取り組みは多岐にわたり、『PEP Kids Koriyama』の設立は成果の一つである。郡山の子どもたちに必要な成育環境をコンセプトにしているが、日本全国の子どもたちにとっても必要な環境であると考え、この郡山の地から、「日本一元気な子どもたち」が誕生することが福島を再生させ、将来の明るい日本を創る原動力となる。地域が一丸となった子どもを育む成育環境の樹立が、今まさに求められている。

「ロハスの産業と文化～脱原発県の進む道～」

日本大学工学部 機械工学科 教授 加藤 康司



今の子どもたちは地球規模で起こる資源枯渇と大規模な環境汚染の時代を生きることになる。資源輸入加工輸出の経済は成り立たない。大量生産、大量消費、使い捨ての生き方は不可能になる。再生可能エネルギーと再生可能材料及びリサイクル材料のみで成り立つ産業と社会を形成し、幸せな社会を構築することが求められる。そのためには新しい生き方と文化の形成を始めなければならない。「健康で持続可能な生活スタイル(ロハス)」の実現を目標とし、そのための産業と文化を有する社会の構築を目指すことがその答えに成り得る。脱原発を決めた福島の親達が不退転の覚悟でその挑戦を開始するならば、福島の子どもたちは幸せな未来を準備されることになる。

日本大学工学部

〒963-8642 福島県郡山市田村町徳定字中河原 1

JR 東北
新幹線

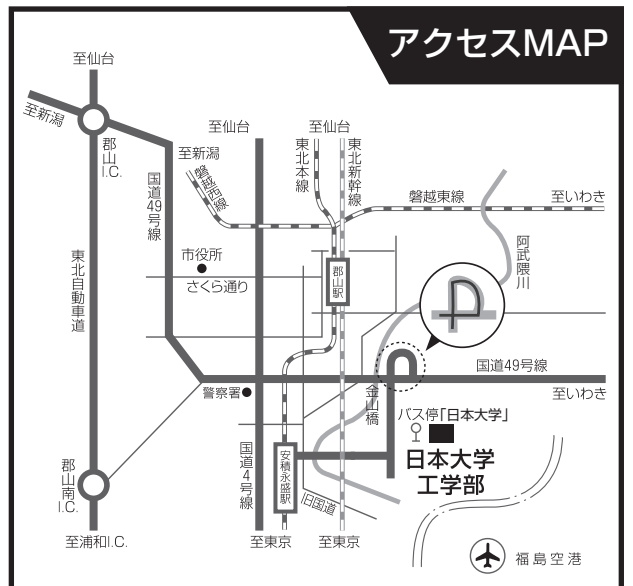
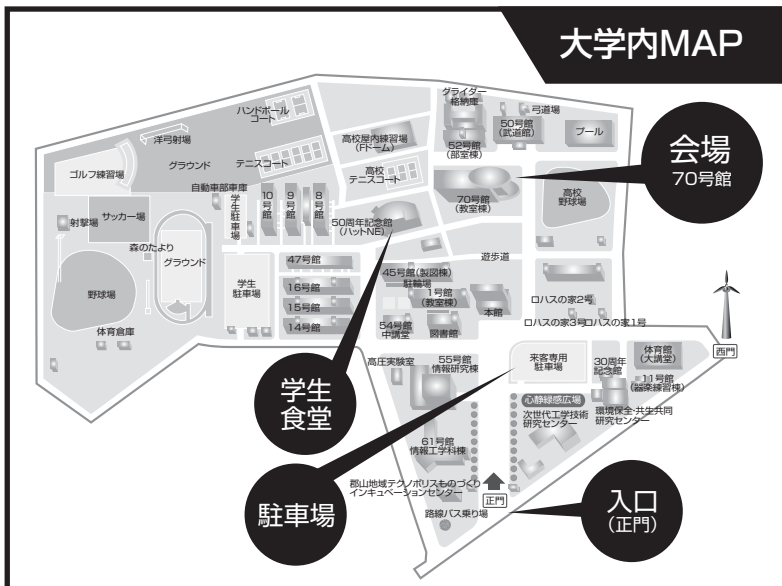
東京駅 → 郡山駅(やまびこ号 80分)
郡山駅 → 日本大学下車(日大行バス 20分)

JR
東北本線

郡山駅 → 日本大学下車(日大行バス 20分)
安積永盛駅下車 (徒歩 15分)

福島空港

車で約30分



※駐車場には限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。 ※当日は、学生食堂をご利用いただけます。

問合せ先

日本大学工学部
研究事務課

TEL 024(956)8648

FAX 024(956)8878

E-mail lohas@ao.ce.nihon-u.ac.jp

URL http://www.ce.nihon-u.ac.jp/

第2回ロハスの工学シンポジウム
～ふくしまの子どもたちの未来のために～

日時：平成25年3月2日（土）13:00-17:15

場所：日本大学工学部70号館

主催：日本大学工学部工学研究所

後援：郡山市、NPO法人郡山PEP子育てネットワーク、公益財団法人郡山地域テクノポリス推進機構、(株)東邦銀行

東日本大震災における原発事故以来、郡山では低レベル放射線下にある子どもたちの心と体の健康増進と、その向上策の一つとして屋内運動施設が期待されています。これらの課題に対し、日本大学工学部の掲げる「ロハスの工学」が子どもたちの未来のために何を成すべきか？市民の皆様と共に考えてみたいと思います。

プログラム 司会：日本大学工学部 機械工学科 准教授 伊藤耕祐

13:00-13:10 開会挨拶：日本大学工学部長 出村克宣

13:10-13:15 来賓挨拶：郡山市長 原 正夫氏

13:15-14:00 基調講演：小児科医 菊池信太郎氏（NPO 法人郡山ペップ子育てネットワーク理事長）

「元気な子ども、明るい未来。郡山の元気、明日の福島。

～震災後の子どもたちの現状と、子どもたちを育む取り組み～

東日本大震災から早2年が経過しようとしている。多様かつ多大なる影響を受けた郡山の子どもたちの現状は、一体どのようなものであろうか。郡山市では震災直後に、行政、教育委員会、医師会で『郡山市震災後子どもの心のケアプロジェクト』を立ち上げた。その取り組みは多岐にわたり、『PEP Kids Koriyama』の設立は成果の一つである。郡山の子どもたちに必要な成育環境をコンセプトにしているが、日本全国の子どもたちにとっても必要な環境であると考え、この郡山の地から、「日本一元気な子どもたち」が誕生することが福島を再生させ、将来の明るい日本を創る原動力となる。地域が一丸となった子どもを育む成育環境の樹立が、今まさに求められている。



14:00-14:45 基調講演：日本大学工学部 機械工学科 教授 加藤康司

「ロハスの産業と文化～脱原発県の進む道～」

石油・天然ガス・ウラン・石炭は100年以内に枯渇する。鉄・銅・ニッケル・クロム・亜鉛・鉛など多くの金属も100年以内に枯渇する。日本で炭鉱や金・銀・銅・鉄の鉱山の殆どが閉じられている現状が世界規模で急速に起こることになる。資源の有限を考えればそれは当然のことである。後に残されるのは地球規模の汚染と環境破壊である。

100年後の人類は不可避免的に再生可能エネルギーと再生可能材料及びリサイクル材料のみで健康に生きなければならない。そのような世界で競われるのは汚染と無駄のない技術に支えられた「健康で持続可能な生活スタイル」、すなわち「ロハス」とそのような人々が形成する社会の文化、すなわち「ロハスの文化」である。産業はそのような人々の要求の中で発展することになる。先進国の多くの人々の望みは既に「大量生産、大量消費、作り捨て、使い捨て」では無い。ロハスの人々が求めるものは、全く新しい産業形態下の「ロハスの産業」によって可能になる。インターネットをキーとして先進国で始まりつつある第3次産業革命がそれである。

福島県の人々がこの歴史的流れを正確に理解し、脱原発を宣言し放射能汚染に苦しんでいる県民として、ロハスの産業を世界一の熱意とスピードで進めるならば、100年で今の人口が1/3にまで減少しつつある日本において、ふくしまの子供達には恵まれた未来が用意されることになるであろう。



14:45-15:00 休憩

パネルディスカッション

コーディネーター：土木工学科 教授 岩城一郎

15:00-15:10 趣旨説明：「ロハスの工学」の研究領域と 2040 年までの研究ロードマップを示した上で、「ロハスの工学」を通じた教育、社会貢献の重要性についても問題提起します。

15:10-15:30 話題提供：生命応用化学科 准教授 児玉大輔

「ロハスの工学によるエネルギー問題の解決に向けて」（研究）

震災前後のエネルギー事情を確認した上、2040 年頃に再生可能エネルギー100%を実現するためのポイント、その過渡期における技術の必要性を、自身の研究例を交えて考えてみます。

15:30-15:50 話題提供：電気電子工学科 准教授 村山嘉延

「未来を担う子どもたちの学びについて考える」（教育）

人々が変われば社会が変わると言われます。では、ロハスの工学で描かれる未来を実現するために、私達はどのように変われば良いのでしょうか。福祉大国・北欧の教育事例とともに考えてみます。

15:50-16:10 話題提供：建築学科 准教授 浦部智義

「ロハスの地域・まちづくりの契機づくり」（社会貢献）

震災前から課題であった、地方における地域・まちづくり。その契機を、ロハスを切り口に日常性や生活に身近な視点から考えてみます。震災を経た今、屋内運動施設もその契機になるかも知れません。

16:10-17:10 ディスカッション

パネリスト案：菊池信太郎氏、箭内研一氏（郡山市総合政策部）、遠藤佐起子氏（郡山市カウンセラー）、児玉大輔、村山嘉延、浦部智義

17:10-17:15 閉会挨拶：工学研究所長 竹中豊文

